

# ぴったりわり切れないわり算の答えのを見つけ方を考えよう

単 元	あまりのあるわり算	対象学年	3 年
ね ら い	余りのあるわり算があることに気付き，計算の仕方や答えの適切な表し方を自ら考えようとするができる。		

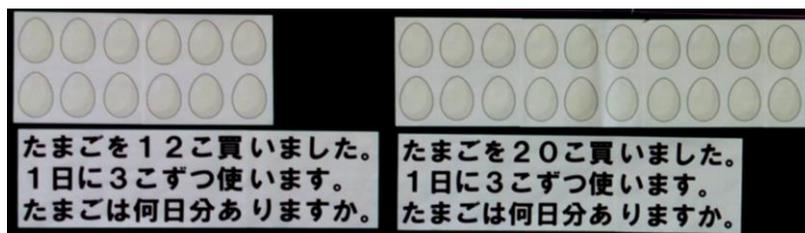
## 1 準備するもの

教師：卵がかいてある図，問題文

## 2 学習のしかた

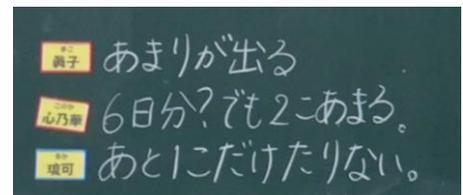
(1) 問題把握をする。

「1日に3こずつたまごを使う」という話をしたうえで，卵がかいてある図を2パターン見せる。わり切れるわり算の問題と，わり切れないわり算の問題を並べて提示し，「わり切れない」わり算があることに気付かせる。



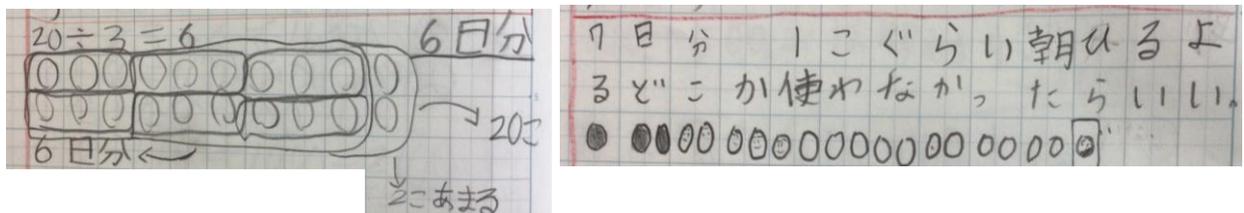
(2) 課題設定をする。

わり切れない問題の答えについて，「何日分ありますか？」と問い，子どもが余りがあることに気付いたところで，「ぴったりわり切れないわり算の答えのを見つけ方を考える」という課題を設定する。



(3) 自分で考える時間を設ける。

5分程度時間を取り，自分でノートに図を書いて考える。



(4) グループで説明し合った後，全体で説明をし合い，解決していく。



①グループで図を見せ合いながら説明をした後、全体で6日分、7日分に意見が分かれたことを確認し、どのように考えたかの図を黒板に書かせ、説明させる。

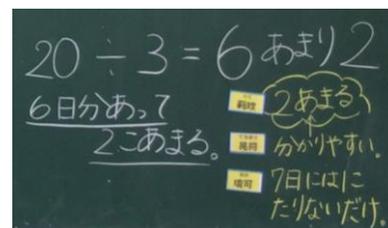
②問題文の「何日分ありますか。」という言葉に立ち返り、余りの2個を日数に入れてもよいのかどうか問い直し、6日分、7日分のどちらの答えが正しいかを確認する。

※「足りない」という時は、答えに入れてはいけないことを全体で確認する。

③「 $20 \div 3$ 」の解のかき方について、「 $20 \div 3 = 6$ 」と書いてよいのか問い、どのように答えを表したらよいのか考える。子どもの意見をもとに、「 $20 \div 3 = 6$  あまり2」という表し方を紹介する。

※「6」は「6日分」という「日数」、

「2」は「2個」という「余った個数」であることをおさえる。



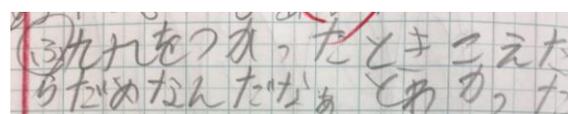
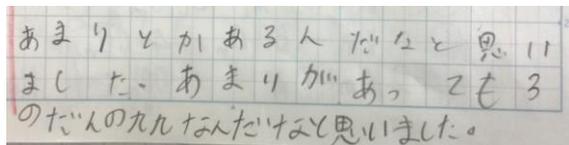
(5) 類似問題を解く。

卵の並べ方や数を変えた問題をいくつか出題し、理解の定着を図る。

※既習のわり算と同様に、3のだんの九九を使って考えられることに気付いた児童を意図的指名し、わられる数をこえない一番大きな数が答えの日数になることに気付かせる。

(6) 振り返りをする。

「今までのわり算と同じように、九九を使えば計算できること」、「わられる数をちょうどこえない数が答えの日数になること」が理解できているか確認をする。



### 3 学習上の留意点

- ・わり切れる問題とわり切れない問題を並べて提示し、違いを強調できるようにする。
- ・これまでに学習した「わり切れるわり算」は、あまりが0の場合であると考え、  
「あまりのあるわり算」にふくまれていると統合できると気付けるように、  
「わり切れる問題」と「わり切れない問題」を対応させて板書を行う。
- ・さまざまな考えを受容したうえで、「何日分あるか」という問いに対して、「余り」と「足りない」の考え方の違いに気づき、適切な答えの表し方に気付けるようにする。

### 4 学習の効果

- ・身近な買い物の場面から卵を使った題材を取り上げることで、児童が生活場面とつなげながら意欲的に授業に参加することができた。また、卵の形が簡単なことから、児童が自分でノートに図をかき、簡単に自分の考えをまとめることができた。
- ・「わり切れる問題」と「わり切れない問題」を並べて提示し、考え方を比較することで、どちらも同じように計算をすることができると気付くことができる児童が多かった。
- ・「余る」「足りない」の考え方に焦点を当てて考えたことで、本時以降のあまりのわり算の学習で、「足りない」という誤った考え方をする児童がほぼいなくなった。